

緑区

世帯：4,490 世帯

鳴海東部学区

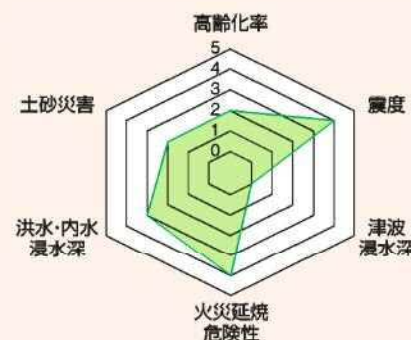
人口：11,524 人 面積：2.865 km²
(令和2年1月1日現在推計人口より)

などの家庭の地震対策に努めましょう。また、液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、路上に泥水が流れ出し、通ることがなくなることがあります。これらを踏まえ、適切な避難先とそこまでの安全な経路を考えておきましょう。

当学区には一戸建ての住宅が密集している地域があり、一度火災が発生すると広い範囲に燃え広がる可能性が高くなっています。火災から火災を起こさないための対策をするとともに、大規模な火災の発生時に避難できる広域避難場所を確認しておきましょう。

リスクレーダーチャート

	値	5段階
高齢化率	16.6%	2
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	1,000~2,500棟未満	4
洪水・内水浸水深	1.0~2.0m 未満	3
土砂災害	警戒区域に人家10件未満	2



お住いの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況(密集状況や古いブロック塀など)及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災、減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用ください。
名古屋市 地区防災カルテ 検索



火災から命を守るために「今」できること

●住宅用火災警報器を設置する。

寝室、寝室がある階の階段、台所に設置が必要です。火災を早く発見し、火災を未然に防ぐだけでなく、隣近所への燃え移りを防ぐこともできます。また、設置後も定期的に、動作確認をしましょう。



●住宅用消火器等を設置する。

小型で軽く、取り扱いが簡単な住宅用の消火器や、片手で素早く使えるスプレー式で、天ぷら油などの火災に威力を発揮するエアゾール式簡易消火具を備えておくと、いざという時に役立ちます。



●感震ブレーカーを設置する。

地震の揺れを感知すると、自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止するために有効です。

●隣近所の協力体制をつくる。

「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識をもって、隣近所で声を掛け合うなど地域ぐるみで「放火されない環境づくり」に努めることが放火対策の重要なポイントです。

学区の皆さまへ(ご協力をお願い)

◆建物の耐震、家具の転倒防止など、命を守るための安全対策を進めましょう。

◆感震ブレーカーや火災警報器の設置など、火災による被害を出さないように備えを進めましょう。

◆自分と家族の安全を確認後、被害の拡大を防ぐため、積極的に自主防災活動に参加しましょう。



一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!

◆災害の恐れがなくなった後も、避難生活は続きます。自宅(在宅避難)が一時的ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合い生活します。

◆「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要資などを整理して区本部(区役所)に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

避難先へ安全に避難するための5つのポイント

①ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る!



②「一緒に逃げよう」近所への声かけ!



③高齢者や障害者などの避難誘導を!



④原則徒歩で!(渋滞抑止・高齢者や障害者などの避難を妨げない)



⑤木造住宅密集地、がけ地や川の近くは避けて!



一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、周囲の方からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、高齢者や障害のある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げられない方を把握し、地域みんなでいち早く避難行動がとれるよう協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方

例えばこんな方
目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障害のある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など。

対応方法
やさしい言葉でゆっくり声かけ
メモや身振り手振りで伝える

移動が難しい方

例えばこんな方
普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど。

対応方法
複数で手伝う
身近にあるものを利用する

非常持出品の準備

いざという時すぐに持ち出せるよう、非常持出品を準備しておきましょう。

【備蓄品の例】災害に備えて用意しておきたいもの

7日分程度用意しましょう

- 命をつなぐために用意しておきたいもの
- 保存がきく食品(自分が食べやすいもの)
 - 常備薬(持病の薬を含む)
 - 飲料水(ペットボトル)
 - 1人1日3リットルが目安です。また、水分の多い食品(ゼリーなど)と組み合わせることで量を減らすことができます。
- ◆防災用品
- 給水用のポリ容器・バケツ
 - ロープ
 - バール
 - のこぎり・工具など
- ◆寝具等
- 毛布
 - 寝袋
 - キャンプ用テント
- ◆燃料
- カセットコンロ(予備のボンベ含む)
 - 固形燃料
- ◆便利用品
- ドライシャンプー

非常持出品の例

- ◆防災用品
 - 携帯ラジオ
 - ヘルメット・防災ずきん
 - 軍手
 - マスク
- ◆貴重品
 - 現金(小銭も必要)
 - 預(貯)金通帳の写し
 - 健康保険証・免許証の写し
 - カード類
 - 認印・印鑑など
- ◆衣料品
 - 衣類(着替え)
 - タオル(大小2種類)
- ◆照明等
 - 懐中電灯(電池含む)
 - マッチ・ライター
- ◆医療用品
 - 三角巾
 - 包帯・ガーゼ
 - ばんそうこう
 - 消毒薬
 - ウェットティッシュ(ティッシュ)
 - お薬手帳
- ◆食器類
 - はし・スプーン
 - 紙皿・紙コップ
- ◆便利用品
 - 筆記用具
 - 新聞紙
 - 携帯トイレ
 - ゴミ袋
 - キッチン用ラップ
 - 使い捨てカイロ
 - 雨具
 - 手動携帯電話充電器
- ◆その他(個人的に必要なもの)
 - 粉ミルク
 - 生理用品
 - 紙おむつ
 - 予備のメガネ・補聴器など